

収穫が遅れた牧草の飼料給与対策について

令和4年6月中旬以降に続いた降雨により、1番草の収穫が遅れた草地も見受けられました。収穫が遅れた牧草を最大限に利用して採食量を増やすポイントを説明します。

令和4年産の牧草の特徴について

一般的に収穫日が遅くなると繊維質（以下：NDF）が増加し、粗蛋白質（以下：CP）が低下します。NDFが高くなると乳牛の採食量が低下し、またCPが低下すると生乳生産に必要な栄養が不足します。

令和4年の生草分析からも同様に収穫が遅れるとNDFが増加し、CPが低下する傾向がみられました（図1）。生乳生産を維持するには、栄養濃度と乾物摂取量を充足させることが大事なポイントとなります。

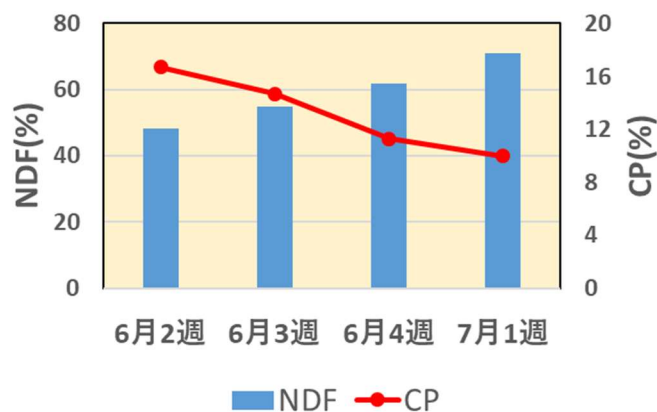


図1 R4 宗谷管内1番草TYの生草分析結果

収穫が遅れた牧草の飼料給与対策について

- ①栄養濃度を保つ給与
- ②選び食いを確認してエサ寄せ回数の増加と多回給餌の実施
- ③ロール等は細断する
- ④液状糖質系飼料の添加
- ⑤飼養環境の整備

①栄養濃度を保つ給与

給与する粗飼料の栄養成分を確認するため、粗飼料分析を行いましょう。CPが低い場合、大豆油かす等の高タンパク質飼料を給与し栄養を充足させましょう。また消化できないNDFの割合が高い場合、消化の良いビートパルプやアルファルファヘイを給与し、繊維の摂取量を確保しましょう。

②選び食いを確認してエサ寄せ回数の増加と多回給餌の実施

刈り遅れの粗飼料は嗜好性が悪く、濃厚飼料のみを食べようとする「選び食い」が増える傾向にあります。乳牛の採食行動や残飼などから「選び食い」をしていないか確認しましょう。もし選び食いをしている場合、TMR等の給餌回数を増やすなどを行い、「選び食い」を予防しましょう。

またエサ寄せの頻度を高め、常に採食可能な環境を作りましょう。写真1のような乳牛の口が届くことができる範囲にエサがない状態が続くと、乳牛の採食意欲が低下し、乾物摂取量が低下します。



写真1 エサ寄せ前の飼槽

③ロール等は細断する

収穫が遅れたロールサイレージやロール乾草しか給与出来ない場合、細断して長さを短くして給与することで乳牛の採食意欲が高まり、乾物摂取量の増加が期待できます（写真2）。

細断することができない場合、できるだけほぐして給与することで乾物摂取量の低下を緩和することができます。



写真2 ロールサイレージをカット中

④液状糖質系飼料などの添加

液状糖質系飼料などを添加して嗜好性を高め、乳牛の乾物摂取量を高める方法があります。

しかし液状糖質系飼料は嗜好性が高まる一方、原料によってカリウムの含有量が高いものもあるため、給与する前に成分表を確認しましょう。特に乾乳牛へ給与する場合、注意が必要となります。

分離給与の場合、写真3のように粗飼料の上に水で薄めたものを散布し、給与します。

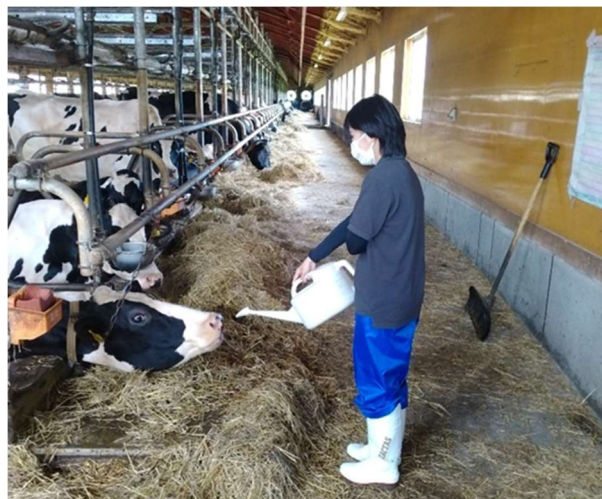


写真3 液状糖質系飼料の給与

⑤飼養環境の整備（ウォーターカップ清掃・暑熱対策）

ウォーターカップ清掃

乾物摂取量を維持するためには、水を十分に飲むことが必要とされています。産乳量にもよりますが1日に90～150リットルの水を必要とします。特に夏は暑熱ストレスがかり、通常よりも飲水量が増加します。

ウォーターカップの清掃を行うことで、牛の飲水が促され、採食が促進されます。ウォーターカップ内の汚れがひどい場合、重曹を使って清掃するようにしましょう（写真4）。



写真4 重曹で清掃する様子

暑熱対策

乳牛が採食したエサを消化するとき、熱を発生します。熱の発散が上手くいかないと、エサを食べるのを止めてしまいます。

換気と送風を充実させることで暑熱ストレスを低減させ、乾物摂取量の低下を防ぎましょう（写真5）。



写真5 カーテンを開き換気促進